

# コスモスしえんだより



紀伊コスモス支援学校

支援教育部

2017. 7. 1 第2号



発達検査読み取り研修をしました。講師：和歌山つくし医療福祉センター 阪上臨床心理士

児童生徒への支援方針をたてる時、まずは子どものさまざまな情報を多面的・総合的に判断した実態把握からはじめることが大切です。実態把握の方法はいくつかありますが、各種検査を活用することで、子どもの実態を客観的に把握することができます。

- ① 実態把握
  - ・ 行動観察
  - ・ 保護者等からの聞き取り・検査
- ↓
- ② 総合的判断と支援方針
- ↓
- ③ 個別の指導計画
- ↓
- ④ 教材作り等



本校では、6月9日（金）に和歌山つくし医療福祉センターの阪上陽一臨床心理士を招き、「新版K式発達検査2001」の検査結果の解釈の方法を学習しました。子どもへの支援を視点にグループで



討議した後、阪上先生による検査結果の解釈・解説を行っていただきました。

## 本校キャリア部より 連載①

「卒業なんてまだまだ、先のこと…」と考えていませんか？  
～将来豊かに生活する上で大切なことは何でしょう～



人は自分の「夢」を持つことが大切です。

自分はこうありたいと願い、「なりたい自分に近づく」ために必要な力は以下の4つだと考えます。

- ① 自分を知る    ②自分を磨く    ③自分を試す    ④社会を知る

これらの力を学校生活でしっかり身につける取組が大切であり、それを支援していくのがキャリア教育です。言い換えれば、将来、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められており、その視点に立って日々の教育活動を展開することが大切だといえます。それはどの学校でも同じです。

小学校低学年では、日常生活、各教科、特別活動、道徳の時間等を通して、自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし様々な活動からの興味・関心を高めながら、意欲と自信を持って活動できるようにしたいものです。

今回は、小学1年生から取り組むライフキャリアについてご紹介します。

## 交流・連携の場

今回は、那賀圏域障害児者自立支援会議精神障害部会から医療法人宮本会紀の川病院 地域生活支援部長 森口 智史さんに記事を依頼しました。

和歌山県では県下全域に、地域で暮らす障害者の方々がより良い暮らしができるように、地域の関係機関が連携して課題の解決を図ることを目的に「自立支援協議会」が設置されています。

那賀圏域障害児・者自立支援協議会では一昨年より会議の中で、思春期に課題を抱えている人がたくさんいるという報告を受け、昨年度から課題を明確にする取組を行ってきました。それぞれの機関の状況をまとめていく中で、大人になってから相談や支援につながる人たちの中には、思春期の時点で何らかの問題を持っていたと考えられるケースがたくさんあることがわかりました。また、その中には就学時に引きこもりや不登校であったケースも多く見られました。

引きこもりや不登校にいたる背景には、発達障害や精神障害、社会環境への不適合など様々なものがあります。回復に向けては、それぞれの特性を理解したうえで、障害に応じた支援が必要になります。

協議会では、今後も思春期の課題についての取組を継続していきます。

ぜひ関係機関の皆様と連携しながら検討したいと考えていますので、今後ともご協力よろしくお願いします。



## 【自閉症の特性と教育的対応①】

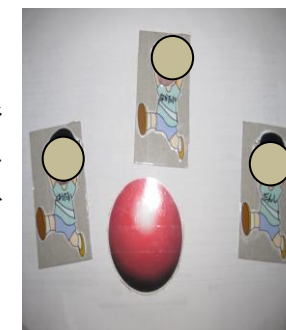
全体に注目せずに一部分にだけ注目してしまう傾向



鬼ごっこをしてもルールの一つの要素（追うこと）のみに選択的に反応してしまう。ルールにそって遊べない。

たとえば、本校では・・・

鬼ごっこではないですが、「大玉転がしドッジボール」のルール理解を促すために、ホワイトボード上に、個々の人形カードとボールを提示し、カードやボールを動かしながら、攻撃と守備のそれぞれで動き方やルールを視覚化して説明した実践もあります。



## 書籍の紹介



絵本「つながる！ にがてをかえる？まほうのくふう」（今井出版）（しまだようこ著 井上雅彦監修）発達障害のあるクラスメイトへの工夫や支援をとおして、自分達にとってもわかりやすい環境をつくりだす子どもたち。教師も子どももこれからの教育に必要となる「ユニバーサル教育」の理念を学べる絵本です。